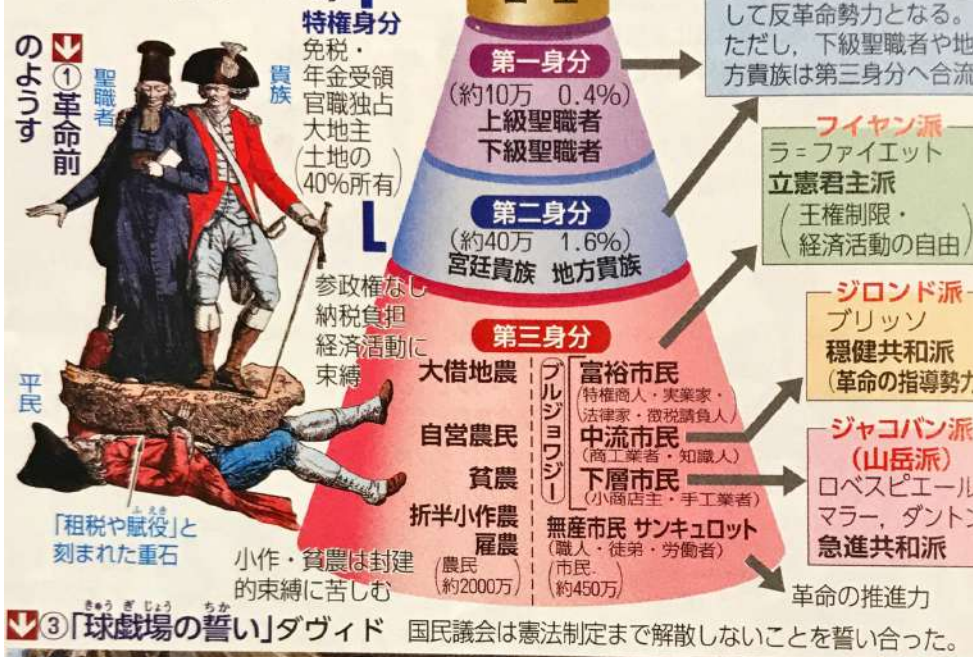


1-3. フランス革命補足

以下の問いを意識し読み進めてください。

Q. 革命の主導権はどのように変遷したのだろうか？

2 旧制度(アンシャン・レジーム)



フランス革命の背景と原因

フランス革命前の絶対王政下の社会的状況：

アンシャン・レジーム (旧体制)

国王を頂点とし、聖職者を第一身分、貴族を第二身分、その他を第三身分と位置付けた体制。第一・第二身分は国土の大半を所有する封建領主として農民を支配し、さらに免税特権などが認められていた。第三身分には、都市の商人や農民などが含まれ人口の大部分を占めたが、国王や領主への租税などに苦しめられる一方参政権は与えられていなかった。

第三身分の中にも様々な立場が存在した。都市には大商人や金融家など巨額の富を持つ者がいた一方、定職に就かない者もいた。農村でも同様に、大規模な農場を経営する者がいた一方自分の耕作地を持たない農業労働者がおり、その差は激しかった。



← 『ニューステージ世界史詳覧』 浜島書店 P.196より

フランス革命の背景と原因

フランス革命前の政治的・経済的状况

ヨーロッパ・植民地での戦争により支出が増大

(例) アメリカ独立戦争支援の経費

→従来の税制で赤字をおぎなうことが困難に…

ルイ16世は解決策として、従来免税特権を持っていた人々から税をとることを模索したが、貴族が反発し三部会の召集を求めた

☆1789年5月 新税課税のため**三部会**を召集

三部会とは、古くからある身分制の議会。議席は第一身分と第二身分が各300席、第三身分が600席。国内の貴族たちに新税を認めさせるために召集したが、議決の方法で身分間の対立（身分ごとに一票or議席の頭数で一票）があり結果的に審議には入れなかった。

フランス革命の過程

—絶対王政から立憲君主政へ

- 第三身分の台頭

三部会で特権身分と対立した第三身分は、三部会から分離し独自の議会である「**国民議会**」を発足させた。その目的は憲法を制定することであった（**球戯場の誓い**）。

その後、第一身分・第二身分の代表も国民議会への合流を余儀なくされ三部会は消滅し、国民議会が憲法制定の場となった。

※国民議会は第三身分が発足させた機関だが、特権階級が合流した結果王党派から立憲派、共和派まで幅広い政治的主張を持った人の集まりとなった。

フランス革命の過程 —絶対王政から立憲君主政へ

国民議会には憲法制定以外の課題も

バスティーユ牢獄襲撃（※政治犯が収容されていた牢獄をパリ市民が襲撃した事件）とそれに影響を受けた地方農民の騒乱を受けて…

1. 封建的諸権利の廃止を決定

国民議会の聖職者・貴族自ら身分的な領主特権を廃止することを決定。

2. 人権宣言の採択

自由と平等をうたったもので、国民主権の原則がしめされた。アンシャン・レジーム（旧体制）との断絶が示された。

フランス革命の過程

—絶対王政から立憲君主政へ

国民議会の成果：フランス初の憲法「**1791年憲法**」の制定

三権分立・**立憲君主政の採用**、制限選挙（一定の税を納入しているフランス人男性にのみ参政権が与えられた）

☆憲法制定目前でルイ16世とその家族ヴァレンヌ逃亡未遂

→保守派の貴族の国外脱出が相次ぐ

国民議会は憲法制定という役割を終え1791年9月に解散、新たに**立法議会**が召集された。

フランス革命の過程

ー革命戦争と王政の没落

立法議会の構成

- フイヤン派…91年憲法体制で革命を収束させたい立憲君主派
- ジロンド派…さらなる改革が必要；穏健共和派＋開戦派

オーストリア皇帝とプロイセン王は「ピルニッツ宣言（1791年8月）」にて、フランス革命に対し王政の復興を要求し「準備が出来次第緊急の行動を行う」ことをヨーロッパの君主達に要請していた。
☆ルイ16世は外国軍がフランス革命軍を一掃してくれるよう期待し、開戦を望んでいたため議会による宣戦布告を承認

ジロンド派を中心とした立法議会：1792年4月**オーストリアに宣戦布告**
→しかし、フランス軍指揮官は貴族出身者が多く緒戦は惨敗

プロイセン軍が
フランス国境に
接近

フランス革命の過程

ー革命戦争と王政の没落

立法議会：非常事態宣言「**祖国は危機にあり**」

各地の連盟兵（義勇兵）が組織され、サンキュロットと呼ばれる革命派の下層市民も革命の前進を主張しパリに集結した

→サンキュロットと義勇兵が蜂起しテュイルリー宮殿に進撃、ルイ16世一家を監禁「**8月10日事件**」

立法議会（サンキュロットなど民衆にうながされ）：

王権の停止、新憲法を作成するための国民公会の召集を決定

フランス革命の過程

—共和制樹立と革命の危機

男性普通選挙により**国民公会**召集
→王政廃止を決定 = **共和制の樹立**

国民公会の構成<すべて革命の支持者だが…>
・**ジロンド派**：穏健共和派。
・**山岳派（ジャコバン派）**：
サンキュロットなどの民衆運動との連携にも積極的な急進共和派。下層市民への富の配分を主張し一定の統制経済の導入を求めた。

1793.1.21 ルイ16世処刑

→イギリスはこれを口実に第一回対仏大同盟を結成

1792年秋からフランスは攻勢に転じていた—11月にはベルギーを占領。**革命の防衛から革命の輸出**に転じており、国民公会も「人民が自由を取り戻そうと望んでいる」ところへはどこでも介入してよいとしていた。一方イギリスでも国内の急進派は反政府運動を強めつつあったため、フランス革命を抑え込みたい意図があった。

☆**第一回対仏大同盟により対外関係が、ヴァンデの反乱により国内でも革命の前進が危機にあると見られた。**

フランス革命の過程

－革命独裁とその反動

1793年6月 民衆運動の圧力により国民公会からジロンド派が排除される→山岳派（ジャコバン派）が主導権を握る

山岳派**ロベスピエール**：急進的な共和制を目指す独裁政治を推し進める

- 1793年憲法制定：財産資格で制限しない普通選挙制を定める
- **封建的特権の無償廃止**：封建地代を無条件で廃止
- 最高価格令：穀物・小麦・生活必需品・食糧の最高価格を定め物価統制をはかった（→自由競争を妨げると、市民から反発）
- **恐怖政治**：反革命派のとりしまり→王党派やフイヤン派の残党、ジロンド派をつぎつぎにギロチンにかけた

1794年7月 **テルミドールのクーデタ（反動）**

独裁政治を敷いたロベスピエールは議会と民衆の支持を失い、国民公会にて捕らえられ処刑された。正式な手続きを取らずに武力により政権が交替したため「クーデタ」とされる。

フランス革命の過程 — 恐怖政治の後

☆ロベスピエール処刑後の国民公会の課題：革命をどのように着地させるか？

1795年憲法制定

- 参政権：財産資格をともなう制限選挙に戻される
- 独裁を防ぐため二院制採用：元老院と下院
- 政府は5人の総裁から成る集団指導体制へ（＝**総裁政府**）

教科書より：「革命は以後退潮にむかった。」